

研修レポート

(一財)全国建設研修センター主催 都市計画Ⅱについて

牛久市建設部都市計画課 主事 尾崎 友亮

茨城県都市計画協会のご協力により、一般財団法人全国建設研修センター主催の「都市計画Ⅱ」研修へ参加させていただきました。令和6年11月18日から22日の5日間で行われ、1日目は東京都豊島区池袋周辺での現地研修、残りの4日間は東京都小平市の全国建設研修センター研修会館で主に講義形式でした。今回は1日目の現地研修、及び2日目のグループワークを主に紹介いたします。検討課題は、「東京都豊島区東池袋四丁目旧造幣局跡地に隣接する街区におけるまちづくり方針の検討」でした。担当講師である一般財団法人計量計画研究所の石川様、溝口様よりまちづくりの方向性を定めるうえでの考え方についてアドバイスをいただきました。

【1 現地研修】

1日目は、11時から12時までグループごとにあらかじめ設定されたルートを視察しました。視察したのは、サンシャインシティの南東側のエリアで、密集市街地でした。その中で、防災道路や従前住宅、防災公園等も見ました。12時から3時間ほど、グループごとに現地視察だったので、課題地区（朋友小学校、豊島区総合体育場）や、最寄りの公共交通機関であるJR山手線大塚駅・都電荒川線向原駅・東京メトロ有楽町線東池袋駅、豊島区役所等を見ました。実際に街を歩きながら街づくりについて考えることは新鮮であり、地図を見るだけで考えるよりも、地区の特性や課題を把握しやすかったと思います。東池袋のエリアは、東京の副都心である池袋駅周辺の地区という側面と、木造の住宅が密集して建ち並ぶ密集市街地の地区という側面の2つを併せ持っていると感じました。課題地区はちょうどその間の辺りにあり、2つの側面になじむようにまちづくりの方向性を考える必要があると思いました。



密集市街地の様子



防災公園



防災道路

【2 グループワーク】

2日目はグループワークを行いました。グループメンバーもおおよそ1日目に私が感じた印象と同じことを感じており、外から来る観光客や留学生等と、地元の住宅地の人の両者に利用できるような施設が良いのではないかと話しました。（近隣校と統廃合される仮定の）朋友小学校については、診療所として建物をそのまま使い、機能を残しても新しくしてもよい総合運動施設については大きく利用方針を変えることなく、小規模な体育館を建てることを初めは考えておりました。しかし、集合研修のグループは民間デベロッパーの立場で検討ということだったので、利益を考えるようにしました。その結果、学校の建物は診療所としながらも、空き教室部分をワークスペースや会議室として利用するということになりました。隣の総合運動施設についてはマルシェや朝市を行う場として考えました。

【3 特別講話】

今回の研修で特に心に残った講義は、筑波大学谷口教授の特別講話です。その中で、人間の生活習慣病と、都市の問題を関連付けて考えるところが特に印象に残りました。例えば、肥満化は都市の拡大、骨粗鬆症は空き地・空き家問題、ガンは急速に人口減少が進む中で高層マンションが建てられることです。都市の問題を把握するうえで、このように人間の身体の病気に見立てて考えることは理解しやすかったです。その他にも、海外の事例を用いて、コンパクトシティについての説明がありました。

今回の研修で都市計画に関する基礎的な知識を習得することができました。今後は、今回いただいた資料を振り返り、関連する事項を新たに調べるなどして、都市計画に関するより詳しい知識を身に付け、業務に取り組んでいきたいと思っています。